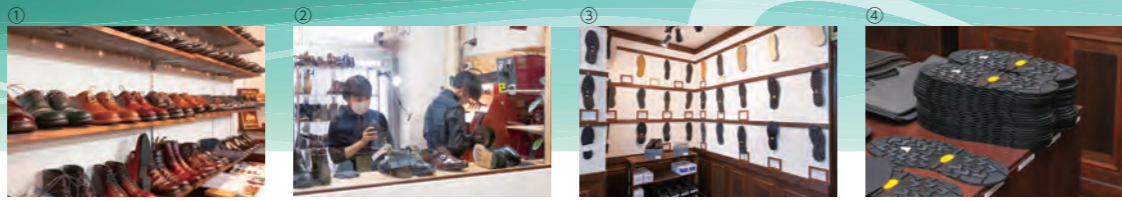


- ①オーダーシューズのサンプルコーナー。
- ②オープンなガラス張りの靴修理スペース。
- ③寒冷地向きを選びすぎたソールがずらり。
- ④人気の高いVibramのソールが山積み。マイナス20℃の極寒でも硬くなりません。



初めてのお客さまは40代のサラリーマンでした。僕は精一杯の気持ちを含め、20分ほど汗だくになりながらどうにかやり遂げました。ところが靴が全然綺麗になつていないのです。それでもお客さまは「ありがとう。兄ちゃん珈琲でも飲んで頑張つて」という言葉と120円出して下さいました。その120円が、それはそれは重くて、そして気づくのです。「お金をもらった以上はプロだ。やるからにはお代を戴ける本物の靴磨き職人になろう」。

すぐに名古屋駅前にある店舗型の靴磨き靴修理屋さんへ行き「お金は要りませんので手伝わしてください」と門戸を叩き、技術を覚えながら、卒業するまで毎日、大学の講義を終えてから電車で1時間かけ、名古屋駅まで行き、路上で靴磨きを行うことを日課としてきました。

夏休みなどの長期休暇には青春18きっぷなどを利用して、全国主要都市へ靴磨き修行のため脚に出ました。やがて札幌・仙台・東京・京都・大阪・神戸・福岡などでも僕のフ

アンやお客さまが増え、大学卒業後は就職せずに、起業するためにクラウドファンディングで投資を募ることにしました。すると各地で出会ったお客さまが次々とSNSで情報を拡散してくれて、瞬間に300万円が集まりました。それを元手に名古屋駅近くのストゥ屋さんに間借りし、一坪の店を持つことができました。

いつのまにか靴磨きに加えて、お客さまから修理やオーダーシューズのお仕事も依頼されるようになっていきました。2年後には移転し、同駅付近で6坪ほどの店舗へと成長し、第1回日本靴磨き選手権大会に最年少で出場し審査員特別賞を受賞したり、話題性もあり毎月のようにTV・雑誌などのメディアが押し寄せ、当時の「GAKU PLUS」の知名度・人気度は全国区となり、職人も数名雇用し、すべてが順調であるかのように見えました。

妻の一言で北海道に帰る決意を

そんな矢先、コロナ禍になり、遂には廃業の危機に立たされましたが、日本最古の靴修理店である企業さんと大手企業さんから「我久さんに事業を任せたい」というお話をいただき、短期間でしたが運営に携わる機会を得ました。

しかし、自分より遥かに歳上の凄腕職人集団を束ねるには力量不足で、悩んでいるうちに体もメンタルもボロボロに壊れてしまいました。その頃、妻の第二子妊娠も判明し、不安に押しつぶされそうになっていた時でした。妻が言ってくれたのです。「そこまでして働かなくていいよ。一度休んでまたゼロから頑張らしましょう」と。妻の言葉は、北海道での再出発を決意させてくれました。

ASHIDO HOKKAIDO が雪国の足元に革命を起す

気がつけば僕は、本州での生活の中で、かつて抱いていた夢を忘れてしまっていました。自分にしかできない唯一無二の仕事とは？北海道に貢献する事業は？道民をワクワクさせ感動させたいという夢はどこへ行つたのか？そんなやせない思いを抱え3年前の冬に、10年振りに北海道へ戻ったことで、暗闇の中に一筋の光を見たような気がしました。

それはどういふことかと言うと、誰も革靴を履いていないのです。みんな温かいポアシューズのような防寒靴を履いています。思わず「これじゃあ靴磨きは難しい…」と笑みがこぼれる中、行き交う人々の冬靴を見ながら、自分に課せられた、やるべき使命を発見するのです。

社名は「北海道の足元から世界を支える道」を創る。「足道北海道」と命名し、目指した道に進むための挑戦が始まりました。コロナ禍で迎えた初めての夏、客足はまばらで静かに過ぎゆきました。しかし秋を迎えると、急に冬靴の相談が増えました。そして初雪初日、「滑らない冬の靴底はないですか？」との問い合せが殺到し、僕の予想が的中したのです。

多くの北海道民が、「既存の冬底ソールに満足できていない」ということを実感しました。これを解決するのが役割であり、道民に特化したソールを提案し、一人ひとりの靴に合わせ



⑤開発中のオリジナルソール。フラットなので滑らないかと心配されそうですが、オレンジ色のアイスチップがグリッと氷を捉えます。近い将来、これが道民スタイルになるかも。⑥⑦北海道初上陸、VibramのARCTICGRIPをカスタマイズした例。⑧素晴らしいインテリアデザインとディスプレイ。店内施工は家族総出でDIYしました。

ASHIDO HOKKAIDOでは、協力店として丸井今井札幌本店、札幌三越、秀岳荘など道民に根ざした店舗でも冬底取付サービスを提供しています。

ASHIDO HOKKAIDOが雪国の足元に革命を起す



⑤

決断、行動、情熱、新庄さんの“赤”をテーマカラーにしている我久さん。現在でも赤のベスト・ネクタイ・エプロンで日々仕事をしています。



「シンジョー！」と叫んだら、僕の方を振り向き、赤いリストバンドがついた手をスツと高く伸ばし、笑顔で合図してくれ

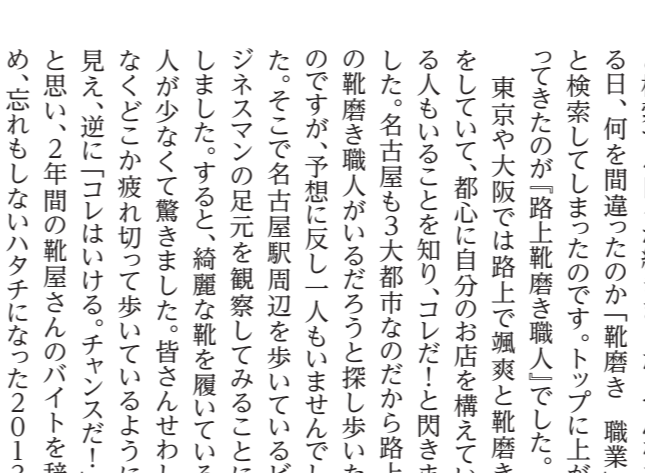
たのです。次第に僕のグローブは赤い新庄モデルになり、守備もセンターに。さらに好きな色ももちろん赤になりました。小学生でありながら「いつか自分しかできない唯一無二の仕事をしたい」「北海道に貢献する人になろう」「新庄さんのように人をワクワクさせ、笑顔と感動を与えられる人になろう」。気がついたらそう思うようになりました。

そんな志を持っていましたが、野球の実力はといえば、足が弱く故障も多かったため活躍することができませんでした。それでも両親は僕のために、1万円以上するスパイクを、僕の足の状態や成長に合わせて毎年買ってくれました。それがとても申し訳なくて、せめて自分のスパイクだけは他の誰よりも綺麗に履こうと中学生のときに決め、毎日磨いては手入れを怠りませんでした。すると部活の仲間や先輩からこう言われるのです。「オレのも磨いてよ」。僕も嬉しくなって「キャッチャーだからもっと耐久性のあるスパイクにしたら」「君は足が速いから軽量タイプがおすすめ」と言った具合に、各選手の足型やポジション・スタイルを見て、靴選びとメンテナンスをすることが大好きにな

かつて抱いていた夢を忘れてしまっていました。自分にしかできない唯一無二の仕事とは？北海道に貢献する事業は？道民をワクワクさせ感動させたいという夢はどこへ行つたのか？そんなやせない思いを抱え3年前の冬に、10年振りに北海道へ戻ったことで、暗闇の中に一筋の光を見たような気がしました。

それはどういふことかと言うと、誰も革靴を履いていないのです。みんな温かいポアシューズのような防寒靴を履いています。思わず「これじゃあ靴磨きは難しい…」と笑みがこぼれる中、行き交う人々の冬靴を見ながら、自分に課せられた、やるべき使命を発見するのです。

社名は「北海道の足元から世界を支える道」を創る。「足道北海道」と命名し、目指した道に進むための挑戦が始まりました。コロナ禍で迎えた初めての夏、客足はまばらで静かに過ぎゆきました。しかし秋を迎えると、急に冬靴の相談が増えました。そして初雪初日、「滑らない冬の靴底はないですか？」との問い合せが殺到し、僕の予想が的中したのです。



⑧

雪国の足元に革命を

北海道民のための冬底取付・靴修理 オーダーシューズ専門店

ASHIDO HOKKAIDO

合同会社 足道北海道

名古屋時代の GAKU PLUS のショッププレート

ASHIDO HOKKAIDO
合同会社 足道北海道

札幌市中央区大通西15丁目3-12 大通西ビル1F
営業時間 平日11:00-19:00
土曜10:00-18:00
定休日 日曜・月曜
☎011-600-1324

代表社員 GAKU 佐藤 我久さん (30)

1993年生まれ 十勝・帯広市出身
日本福祉大学 経済学部卒業
2013年 名古屋駅前にて路上靴磨き店開始
2014年 日本全国の駅前で武者修行
2015年 クラウドファンディングを利用して在学中に靴磨き・靴修理専門店 GAKU PLUS 開業
2016年 NHKドキュメンタリー番組出演
2017年 第1回日本靴磨き選手権大会に最年少出場 審査員特別賞受賞
2018年 靴磨きスタートアップ監修
2020年 1927年創業の日本最古の靴修理店運営に携わる地元北海道にUターン
2021年 札幌にASHIDO HOKKAIDO 開店
2022年 丸井今井札幌本店、三越札幌店紳士靴売場に冬底カスタムサービス開始
2023年 稚内信用金庫 取引開始

り、いつしか野球用品メーカーに就職しようと考えているようになっていました。ところがどこも採用は大卒者のみ。卒業を間近に控えた高3の終わり頃になって、担任の先生に泣きつくように相談すると「日本福祉大学なら指定校推薦で二枠だけ残っている」と教えていただき、面接官には思いの丈をぶつけ、筆記試験もどうにかクリアし、合格通知とともに18歳の春、北海道を旅立つことになりました。そしていつか再び、新庄さんのように北海道に帰ってくることを自分に約束して。

名古屋で路上靴磨き職人へ

大学は愛知県の端の端、知多半島の先に取りました。運良く、ある野球用品メーカーさんから「君にそんなに熱意があるなら引く張るよ。但し、うちの商品を扱っているスポーツ店で4年間アルバイトをし知識を深めてほしい」と言われたものの、大学周辺はスポーツ店どころか、そもそもバイト先が簡単に見つけれない環境だったので。それでやむなくメーカーさんからの誘いを断念し、代わりに探していたバイト先がSHOE PLAZAさんという靴専門の量販店でした。そこからどっぴりと靴の世界にハマってしまい、業

界1・2位を争うABCマートさんも秘かに掛け持ちし、アルバイトに精を出しました。

それでももっと世界中の靴が見たくなり、知りたくてくるのです。さらに、お客さまとダイレクトにふれあいながら感動させられるような仕事で、靴の世界にはないだろうかと、スマホで「靴 職業」と検索する日々が続きました。そんなある日、何を間違ったのか「靴磨き 職業」と検索してしまつたのです。トップに上がってきたのが「路上靴磨き職人」でした。東京や大阪では路上で颯爽と靴磨きをしていて、都心に自分のお店を構えている人もいることを知り、コレだ！と閃きました。名古屋も3大都市なのだから路上の靴磨き職人がいるだろうと探し歩いたのですが、予想に反し一人もいませんでした。そこで名古屋駅周辺を歩いているビジネスマンの足元を観察してみると、人々が少なく驚きました。皆さんせわしなくどこか疲れ切つて歩いているように見え、逆に「コレはいける。チャンスだ」と思い、2年間の靴屋さんのバイトを辞め、忘れもしないハタチになった2013